

10105酒類製造業における死傷災害事例(最大99事例まで) (2020年)

No	年	月	発生時	死傷災害事例	年齢	事故の型	起因物(小)	労働者規模
1	2020	1	21 ～ 22	検査業務を行っていたとき、不適合品の缶を真後ろにあるコンテナに入れようとして、前のめりでバランスを崩して、コンテナごと床に落下した。その際、腰椎捻挫、胸部打撲傷、右手掌挫創を負った。	67	1	911	100 ～ 299
2	2020	1	9 ～ 10	応接室で、清掃中、モップがソファに引っ掛かり転倒した。その際、床で胸部を打ち骨折した。	68	2	417	100 ～ 299
3	2020	2	13 ～ 14	精米所で研磨機の消耗品交換作業中、他の作業員が運転開始ボタンを押して、研磨機が回転開始し、運転を止めるボタンが押されたが、研磨機より手を引いた際に、左手中指が回転する機械に接触し、伸筋腱断裂を負った。	69	7	165	30 ～ 49
4	2020	2	15 ～ 16	酒蔵の中で酒槽の機材を片付ける際に、不安定な場所に置いたため倒れ、右手人差し指、中指を挟み骨折した。	25	7	611	1～ 9
5	2020	2	10 ～ 11	就業途中にトイレに行き、和式トイレで座る際に水道配管に手を掛けようとしたが手が滑り、後ろに転倒して左手をつき、左手首を骨折した。	65	2	391	10 ～ 29
6	2020	2	13 ～	瓶にお酒を詰める製造ラインで、破損瓶を排除する際、金づちで瓶を砕く作業を行うが、破損瓶が入れられるバケツに金づちも入れられており、その金づちを取るため、右手を入れたところ、欠け瓶に	60	8	529	100 ～

			14	手を当てて、グローブをはめていたが、右手中指第2関節付近に裂傷を負った。				299
7	2020	2	11 ～ 12	水切りラックに置いてある洗い済みの一升瓶を充填のためラインに載せる際、ラックの縁に瓶の口辺りをぶつけ破損した。その割れた瓶で左手中指と薬指に切創を負った。安全な動作スペースを確認せず、直前にグローブを外していた。	63	8	379	10 ～ 29
8	2020	2	9 ～ 10	本社入口で製品を詰め直していたとき、中身が入った段ボール箱を移動する際に体を捻り、腰に痛みが生じた。	42	19	611	50 ～ 99
9	2020	2	14 ～ 15	米計量機周辺を清掃していたとき、昇降機の下に設けてあるピット状のスペース（深さ約1.2m）に落下し、ピットの縁に右腹部を強打して打撲傷を負った。	60	1	414	10 ～ 29
10	2020	4	10 ～ 11	資材置き場で、棚に掛かるはしごを登り、資材を片付けた後はしごを下りる際、はしごが滑って体が床に落ちた。その際、体を横にひねって腰と頭を打ち、第1腰椎圧迫骨折を負った。	79	1	371	10 ～ 29
11	2020	4	15 ～ 16	工場で、台から下りる際、小さな足台の端に足が引っ掛かり、足台が倒れ、腰から床に落下して、尾骨を折った。	30	1	371	50 ～ 99
12	2020	6	14 ～ 15	工場内を歩行中に転倒し、左手親指を排水溝の網に引っ掛けて骨折した。	55	2	419	100 ～ 299
13	2020	7	13 ～ 14	清酒製造工場内で、一升瓶6本入りの箱（約12kg）の積み降ろし作業（約170回）をしていたところ、途中でバランスを崩し、転倒しないように踏ん張ったところ腰を痛め、腰椎椎間板ヘルニアを発症した。	38	19	611	30 ～ 49
14	2020	7	9 ～	醤油压榨場で、絞りカス剥がし作業中、粕剥り機から出る絞りカスが付いた布（120cm×120cm）を両手で振った際、絞りカスの塊が左	52	4	529	100 ～

30	2020	12	6 ～ 7	酒蔵で、酒米が入ったこしき（米を蒸す釜、直径1m、高さ1.5m、円柱形、計1t）を、同僚と2人で蒸し場まで押して移動させた。その際、こしきのタイヤに轆かれて右足親指を骨折した。	54	7	391	～ 49
31	2020	12	19 ～ 20	作業場の外にあるボイラーに、凍結防止の保温マットを台車に乗って巻く際、台車が動いて持ち手の部分に胸を打ち、肋骨を折った。	58	19	362	10 ～ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各小業種における死傷災害事例\(最大99事例まで\) \(2020年\)](#)に戻る。